

講義ユニット名	麻酔蘇生学		所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	かわもと まさし 河本 昌志	所属	麻酔蘇生学 (内線 5265)	
		メール	anekawa@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	はまだ ひろし 濱田 宏	所属	麻酔蘇生学 (内線 5267)	
		メール	hhamada@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	周術期管理の基本である麻酔管理、および痛みの治療の基本について、それらの基礎的事項が概説できるようになることを目標とする。			
コア・カリの 範囲内での 到達目標	<p>高・低Na血症（原因疾患、症候、治療）を概説できる。</p> <p>高・低K血症（原因疾患、症候、治療）を概説できる。</p> <p>高・低Ca血症（原因疾患、症候、治療）を概説できる。</p> <p>高・低P血症、高・低Cl血症、高・低Mg血症を概説できる。</p> <p>アシドーシス・アルカローシス（代謝性・呼吸性）の定義、病態生理と診断を説明できる。</p> <p>アシドーシス・アルカローシス（代謝性・呼吸性）の治療を概説できる。</p> <p>動脈血ガス分析、経皮的酸素飽和度モニターの目的と適応を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>基本的バイタルサイン（体温、呼吸、脈拍、血圧）の意義とモニターの方法を説明できる。</p> <p>主な術後合併症を列挙し、その予防の基本を説明できる。</p> <p>手術に関するインフォームド・コンセントの注意点を列挙できる。</p> <p>周術期管理における事前のリスク評価を説明できる。</p> <p>周術期における主な薬剤の服薬管理（継続、中止等）の必要性和それに伴うリスクの基本を説明できる。</p> <p>周術期管理における輸液・輸血の基本を説明できる。</p> <p>術後痛の管理を説明できる。</p> <p>術後回復室の役割を概説できる。</p> <p>集中治療室の役割を概説できる。</p> <p>麻酔の概念、種類と麻酔時の生体反応を説明できる。</p> <p>麻酔管理を安全に行うための術前評価と呼吸管理を概説できる。</p> <p>麻酔薬と筋弛緩薬の種類と使用上の原則を説明できる。</p> <p>吸入麻酔と静脈麻酔の適応、禁忌、方法、事故と合併症を概説できる。</p> <p>気管挿管を含む各種の気道確保法を概説できる。</p> <p>局所麻酔、末梢神経ブロック、神経叢ブロック、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔の適応、禁忌と合併症を概説できる。</p> <p>安全な麻酔のためのモニタリングの方法、重要な異常所見と対処法を概説できる。</p> <p>悪性高熱症や神経筋疾患患者における麻酔管理上の注意点を概説できる。</p> <p>主な医療機器の種類と原理を概説できる。</p>			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	毎講義、出席状況把握システムと個別の記名式テストの実施を併用することで出席と授業の理解度を確認する。3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。			
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）			
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は受験者の平均点の60%以上とする。			

推奨参考書

【購入を推奨する参考書】  
医学書院 標準麻酔科学 第6版  
【その他、学習に有用な参考書等】  
日本麻酔科学会 周術期管理チームテキスト